

博物館

ニュース

楽しく

見て

学ぶ

Museum
News

徳島県立
博物館

No. 93

千年にちなんで展示します



馬の背中に
つける道具だよ



祭礼用馬具(和鞍)

あなんしあらたのちやうどしんじやさいれい
(阿南市新野町轟神社祭礼で使用)

この資料は、かつて阿南市新野町にある轟神社の祭礼において、神輿巡幸の際に出ていた馬に付けられていたものです。肌付、切付の上に木製で蒔絵の装飾が施された鞍が乗り、鞍の上には馬氈というしきものが置かれています。所蔵していた方から、その他の馬具や衣装とともに当館に寄贈していただきました。

馬は、古くから神様の乗物と考えられ、県内の広い地域で祭礼の神輿巡幸に付きものとされてきました。生活様式が変わり、農耕用や運搬用に馬を飼育する家が見られなくなった現在、県内での祭礼に馬が登場する姿は珍しくなりました。

年が明けて平成26年(2014)の干支は午です。これにちなんで、この資料は12月3日(火)から常設展示室のトピックコーナーで展示する予定です。

(民俗担当：庄武憲子)

宮田蘭堂と大麻町周辺の古墳調査

高島 芳弘

はじめに

阿讃山脈から南に延びる尾根上には多くの古墳群が分布しており、戦前から、地元の郷土史家である宮田蘭堂等によって古墳の先駆的な調査が粘り強く行われました。

徳島毎日新聞の記事や『堀江荘史』[宮田蘭堂編著、1938（昭和13）年発刊]を参考としながら、宮田蘭堂の大麻町周辺における古墳調査のあらましをたどり、現在、県立博物館で保管している当時の採集遺物とその意義について紹介します。

宮田蘭堂の略歴

宮田蘭堂は1879（明治12）年、旧板野郡池谷村に生まれ、名を竹三といました。堀江村の村会議員や助役などを歴任し、阿波神社の創建にも多めに尽力しました。その一方で、鳥居龍蔵や田所眉東などと親交を持つ中で、考古学、郷土史の素養を深め、『堀江荘史』などの郷土誌を編纂・執筆しました。1959（昭和34）年に没し、1975（昭和50）年、近隣の人びとによって阿波神社境内に顕彰碑が建てられました（図1）。



図1 宮田竹三翁顕彰碑

ぬか塚

宮田蘭堂が調査した遺跡の代表がぬか塚です。ぬか塚は大麻町萩原、樋殿谷川をはさんで春日神社古墳群の対岸に立地しています。直径約30m、高さ約5mの円墳で、片袖式の横穴式石室を持っています（図2）。



図2 ぬか塚の横穴式石室

1927（昭和2）年9月頃、墳丘の土取や建築用石材の採取のために古墳が取り崩され、横穴式石室が開口し、調査が行われました。

宮田蘭堂は、1927（昭和2）年9月25日、27日の徳島毎日新聞にそのあらましを報告しています。記事によると、羨道はもともと長さ9mくらいで、砂岩と緑色片岩でつくられていましたが、大部分が破壊されていました。また、円筒埴輪の破片が墳丘に多数散乱していました。一方、玄室は砂岩でつくられており、幅1.5m、長さ3.6m、高さ1.8mでほぼ無傷で残っていました。玄室内からは、鉄刀、鉄鏃、馬具類（馬鐸、輪鏝、轡、辻金具）、須恵器、径18cmの漢鏡、三望環式環刀柄頭、切子玉や丸玉などの遺物が発見されました。

このうち馬鐸（図3）は片面が扁平で文様はなく全面に鍍金（金メッキ）されており、分厚い作りで両側に鱗があります。後に我が国唯一のものとして注目され、東京帝室博物館（現東京国立博物館）で収蔵されることとなりました。



図3 めか塚の馬鐸（複製）
現品東京国立博物館蔵

池谷の古墳

池谷には古墳が多くありますが、天河別神社古墳群のように史跡として残っているものばかりでなく、破壊され現在残っていないものもあります。

池谷駅の西北約100mの所には古墳と思われるものがありましたが、瓦用の粘土の採取や水田の造成のため、墳丘が削平されてしまいました。このとき、数多くの円筒埴輪の破片に混じって動物の足と思われる埴輪も採集されました。後に頭や鞍の埴輪の破片が見つかったことからはっきりと馬形埴輪だと分かりました（図4）。

宮田蘭堂は、この古墳と馬形埴輪について、1924（大正13）年1月15日と1926（大正15）年12月12日付けの徳島毎日新聞紙上で紹介しています。また、『堀江荘史』で、この

馬形埴輪とともに天河別神社古墳群から出土した漢鏡についても、宮田蘭堂自身が保管していることを明記しています。



図4 馬形埴輪

おわりに

馬具類や馬形埴輪、漢鏡は大麻町周辺で採集された勾玉、管玉、丸玉などの玉類（図5）とともに、眉山下にあった徳島県博物館に出品され、その後は現在の文化の森の県立博物館へと引き継がれています。

宮田蘭堂が行った調査や発掘は、現在行われている発掘調査の水準から見れば情報や精度が不足しており、出土状態のはっきりしないものも含まれているなどの問題点もあります。しかし、これらの資料の限界性をふまえた上でも、重要な意義を持っていることも確かです。博物館では宮田蘭堂関連資料の考古学史的な側面も含めて、今後の展示や普及行事などで紹介していきたいと思います。

（館長）



図5 玉類（受入当時の台帳による）

馬の出る祭り

9月から11月にかけて、県内各地の数多くの神社で秋祭りが行われます。各地域それぞれ、特色のある祭りが行われていると思いますが、多くの場合、祭りの中心は神輿の巡幸に置かれているのではないかと思います。

表紙でも紹介したとおり、阿南市新野町の轟神社では、かつて神輿の巡幸に、きれいに飾り付けられた馬に「羽根衣装」という独特の衣装を着けた者が騎乗し随行していたとされます

(図1、2、3)。^{かみやまちょう にのみやはちまんじんじや} 神山町の二宮八幡神社の祭りでも、和式の馬具とともに、図と類似した羽根衣装を所蔵しているお宅があり、同じような習わしがあったのではないかと考えています。

現在、県内で実際に馬が祭りに登場するのを目にする機会は少ないのですが、平成25年10月6日(日)に行われた、^{かつうらちよう おのみやはちまんじんじや} 勝浦町の大宮八幡神社の祭りで、馬が出ているのを撮影する機会を得たので紹介したいと思います(図4)。馬を出さなくなって、^か 代わりに馬の^{のぼり} 幟が出ていたのですが(図5)、近年馬を借りて、神輿が巡幸する地区を一緒に回るようにしたそうです。

(民俗担当：庄武憲子)



図1



図2



図3

図1、2、3 昭和52年(1977)10月24日、25日に行われた阿南市轟神社の祭りの様子。(写真提供：呉羽幸良)



図4 平成25年(2013)10月6日、勝浦町大宮八幡神社の祭りに登場した馬。



図5 平成25年(2013)10月6日、勝浦町大宮八幡神社の祭り。実際の馬の替わりとして出るようになった幟のひとつ。

森崎家資料 - 御用絵師の粉本 -

江戸時代には各地の藩で絵師が抱えられました。彼らのことを、絵画史では藩絵師とか御用絵師と呼んでいます。徳島藩でも、御用絵師の活動が18世紀ごろから知られています。狩野派の佐々木、矢野、河野、森崎家や、文人画系の鈴木家、住吉派の人々などが作品を残しています。

当館は、森崎家の子孫の方が伝えていた絵手本や下絵類、作品の写しを約500点所蔵しています。絵手本の多くは、師家にそなえられたけいこ用の絵を写し取った、いわゆる粉本です。大半が江戸の木挽町狩野家で使用されたものです。作品の写しは地取と言われ、やはり作画の

参考になりました。

森崎家はもともと狩野派でしたが、幕末期に住吉派に転じています。また粉本に記された留め書きを調べますと、森崎のほか、佐々木や矢野家に伝わった粉本・地取類が多く、住吉派の分もわずかにあります。

なお当館の粉本・地取類には、『絵本目録覚』と題された1冊の目録が附属しています。この冊子は内容と年紀などから、文化3年（1806）前後に矢野家がまとめたと思われます。狩野派御用絵師の家が、当時どのような粉本類をととのえ、練習につかい、制作に生かしたかがわかります。（美術工芸担当：大橋俊雄）



図1 水潜の柳図

『絵本目録覚』に載る「水潜ノ柳 探幽」にあたるようです。大横画面で皆がけいこに使う図だと記されています。狩野探幽筆の原画を、徳島藩の御用絵師矢野栄教（? - 1799）が写しています。



図2 銀杏におうむ図

『絵本目録覚』に載る「サ印 切形小押絵 典信公 三巻之内」1巻のうち、「銀杏二音呼」の図です。狩野典信の原画を写した絵手本で、もと68図ありましたが、現状では後半の28図で1巻にまとめられています。



図3 群鶴図粉本と収納袋

『絵本目録覚』の「郡鶴 七枚折 一双 典信」にあたるようです。鶴をしたためた14枚の図を折りたんで紙袋に納めています。狩野典信の原画を、図1とおなじ矢野栄教が明和5年（1768）に写しています。袋は時期が下がるかもしれません。

最近日本に侵入した貯穀害虫の天敵 クロセスジハナカメムシ

米や麦などの穀物類が保管されている貯蔵穀物所^{ちよそうこく}には、時にさまざまな昆虫が発生します。それらはしばしば海外から輸入される穀物類とともにやってくるため、貯蔵穀物所には在来種ばかりではなく、他地域から無作為^{むざくゐ}に移入された外来種も多く見つかります。

2009年頃から関東地方の複数の工場内で、体長2mm程度の微小なカメムシが確認されるようになりました。この正体不明のカメムシは、ハナカメムシ科に属する日本未記録の *Dufouriellus ater* と同定され、‘クロセスジハナカメムシ’ という和名が与えられました。ヨーロッパ原産ですが、アメリカ大陸やハワイ、中国などへ侵入しています。野外では樹皮下^{じゅひか}に生息しますが、貯蔵穀物所や貯木所でもよく発生するため、穀物や木材の運搬とともに自然分布域外へ拡がっていったと考えられています。また、そういった施設では害虫の天敵としても報告されています。本種はその後、栃木県の野外から見付き、さらについ最近、神戸市のポートアイランド（人工島）で、街路樹の樹皮下からも発見されました。

このように、本種が人為的に世界各地へ拡がりつつあること、屋内で発生していること、主に関東地方で見ついていることなどから、近



図2 本種が発見されたトウカエデの街路樹（神戸市ポートアイランド）（田中良尚氏撮影）

年になって日本へ侵入した外来昆虫であることが判明しました。また、神戸市でも発見されたことから、正確な侵入経路や侵入時期などは不明であるものの、日本へは同一地域から侵入して各地へ拡がったのではなく、複数の地域にそれぞれ侵入した可能性も否定できません。現時点で本種の分布は主に関東地方に限られていますが、今後、海外からの物資の窓口である港湾地域や空港周辺を中心に発見されるかもしれません。（動物担当：山田量崇）

参考文献：山田量崇・中山恒友（2013）日本応用動物昆虫学会誌，57：185-189.



図1 クロセスジハナカメムシ（長島聖大氏撮影）





美波町志和岐には「長崎市」の人の名前ばかりが書かれた「寄附者芳名」碑がありますが、これはどんなものなのでしょうか？

美波町志和岐地区にある碑なのに、寄付者がすべて長崎市の人というのも不思議ですね。この碑について見てみましょう。

碑の左端には「大正十四年三月 志和岐浦消防組」とあり、この碑が大正14年頃に集められた寄付金や寄付者を記し、それが志和岐地区の「消防組」によるものだとわかります。地元の方に聞くと、この寄付金は、志和岐地区の消防用倉庫（現在は別の建物）を建てるのに使われたことがわかりました。

では、肝心の「長崎市」の寄付者のオンパレードにはどんな意味があるのでしょうか。寄付者の名前を見ると、船具店、仲買、鉄工所、造船所等の業者名が並んでいます。個人名による寄付も問屋の代表者名です。当時長崎にあった森田屋、宮永、山田屋（現在の山田水産株式会社等）、林兼長崎支店（現在のマルハニチロホールディングス等）の代表者等の名前があります。

碑に書かれている名前の内、旧由岐町の出身者は馬淵造船所だけですが、当時は五島列島の福江島玉之浦（現在の長崎県五島市玉之浦町）で造船所を営んでいました。

碑文の業者名は、実は現在の美波町を中心とする地域から九州へ出漁していた阿波の延縄漁船団に関係する業者です。当時の阿波船団の漁民らは、福江島玉之浦に移り住んで漁業根拠地とし、東シナ海などで漁をしていました。また、一部の漁民らは長崎へと根拠地を移し始めた時期でした。長崎等の問屋は阿波船団に経営資金を融資し、船具屋や造船所は漁具や漁船を整備し、仲買は水揚げした魚を買い取っていました。いずれも、阿波船団の出漁先で関係の濃い業者だったのです。そして、こうした業者が、阿波船団の出身地である美波町志和岐地区からの要請により寄付を行った記録が、この「寄附者芳名」碑なのです。（民俗担当：磯本宏紀）



図1 美波町志和岐の「寄附者芳名」碑

寄 附 者 芳 名	
一金壹百圓也	長崎市 森田友吉
一金貳百圓也	宮永卯三郎
一金貳百圓也	山田吉太郎
一金貳百圓也	虎屋船具店
一金貳百圓也	丸屋船具店
一金百五拾圓也	薩摩屋船具店
一金百五拾圓也	長崎海産株式会社
一金百五拾圓也	長崎生魚仲買組合
一金壹百圓也	山田鉄工場
一金壹百圓也	馬淵造船所
一金五拾圓也	戎谷 茂
一金五拾圓也	伊久村鉄工場
一金五拾圓也	林兼長崎支店

大正十四年三月 志和岐浦消防組

図2 「寄附者芳名」碑の碑文

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史散歩	渋野の古墳見学	12月1日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
那賀川アドベンチャー	たんけん！若杉山一朱の生産遺跡ー	3月9日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
野外生きものかんさつ	初めての植物かんさつ(新年編)	1月19日(日)	13:30~15:30	不要	一般(15)	
	初めての植物かんさつ(冬編)	2月9日(日)	13:30~15:30	不要	一般(15)	
	冬の昆虫ウォッチング	2月16日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	現地集合
	タンポポを探して環境を調べよう	3月23日(日)	13:00~15:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
ミクロの世界	電子顕微鏡で昆虫を見よう！①	12月8日(日)	10:30~12:00	要	小学生から一般(10)	
	電子顕微鏡で化石を見よう！②	1月12日(日)	13:30~15:30	要	小学4年生以上(10)	
	電子顕微鏡で昆虫を見よう！②	3月2日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(10)	
みどりの工作隊	リースをつくろう	12月8日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	
たのしい地学体験教室	アンモナイト標本をつくろう	3月16日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	材料費300円(大学生・一般)
ワクワクむかし体験	勾玉をつくろう	12月22日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(30)	材料費100円(大学生・一般)
	古代の乳製品をつくろう	2月9日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	徳島県の離島民俗誌	1月26日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	阿波の画人を学ぶー掛け軸のあつかいを通してー	2月2日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(30)	
	村からみた江戸時代	2月16日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	阿波の画家ー矢野栄教と河野栄寿ー	3月16日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
部門展示関連行事	部門展示「富岡町本吹田家の歴史」展示解説	12月15日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「ミニ・アンモナイト展」展示解説	2月16日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館スペシャル	ボランティア企画型イベント	2月11日(火)	9:30~16:00	不要	幼児から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1ヵ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	50 〒0000000 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話 088-668-3636)

博物館ボランティア企画型イベント

日時：2014年2月11日(火・祝)
 会場：博物館常設展示室(2階)

※参加無料

博物館ボランティアスタッフが中心になって、楽しいイベントを行います。多数の方のご来館をおまちしております。

- 催し物(予定)
- クイズラリー
 - 体験型の
もよおしもの
(いろいろ準備中)



昨年の様子

博物館友の会 行事のご紹介

2013年8月、友の会行事「自然体験合宿in室戸」を行いました。

会員 名画参加し、有意義な活動となりました。

<活動場所> 高知県室戸岬周辺

<活動内容> ○動植物の観察 ○地形観察
 ○昆虫のライトトラップ

◆2013年度の今後の行事予定

- 1月(日は未定)
郷土料理を作ろう
(博物館実習室)
- 3月(日は未定)
梅見ハイキング
(神山町)



「自然体験合宿in室戸」の活動の様子

くわしくは友の会事務局まで(電話088-668-3636)